

## 症例レポート作成における注意点

- ① 学会ホームページにある「症例レポート波形用紙 (<https://square.umin.ac.jp/JSCN/specialist/sample.html>) をダウンロードして「症例レポート」を作成してください。
- ② レポート症例のモニタリング波形をレポート用紙に貼付する際には、学会ホームページにある「術中脳脊髄モニタリングのサンプル」 (<https://square.umin.ac.jp/JSCN/specialist/sample.html>) を確認し参考にして、必要事項の記載漏れや掲載漏れがないようにしてください。コントロール波形、ベースライン波形、波形変化時のモニタリング波形、手術終了時の波形、が審査者にわかるように明示してください。
- ③ Tc-MEP(経頭蓋電気刺激・運動誘発電位)モニタリングの症例を提出する場合、導出筋を明記し、審査者がコントロール MEP、ベースライン MEP、振幅低下時の MEP、手術終了時の MEP がどれかわかるように明記してください。また、術前・術後または時系列で変化がわかるように提示してください。出力される波形が小さすぎないよう、複数の波形がオーバーラップしないように調整してから症例レポートを作成してください。
- ④ モニタリング波形が誘発できずモニタリングができなかった症例はレポート症例に含めないようにしてください。
- ⑤ 脊椎脊髄手術で Tc-MEP モニタリングを施行した症例のレポートでは、コントロール MEP を記録した症例をできるだけ提出してください。
- ⑥ 症例番号は「波形と所見一覧リスト」(書式 1-5/2-5) の症例番号(ID ではなく)を記載してください。
- ⑦ 「症例レポート波形用紙」に記載の項目のうち「Tc-MEP 増幅法」「TOF 値」以外の項目はすべて記入してください。経頭蓋電気刺激一運動誘発電位 (Tc-MEP) モニタリング施行例のレポートでは、できるだけ「TOF 値 (モニタリング開始時)」を記載してください。
- ⑧ 「判定」の項目では、所属施設のアラームレベルとモニタリング判定 (TN, TP, FP, FN) を記載してください。判定は以下の基準で判定してください。

TN(true negative) :	手術終了時にモニタリング波形がアラームレベルよりも低下せず術後新たな神経症状も出現しなかったもの
TP(true positive) :	手術終了時にモニタリング波形がアラームレベルよりも低下し術後新たな神経症状が出現したもの
FP(false positive) :	手術終了時にモニタリング波形がアラームレベルよりも低下し術後新たな神経症状が出現しなかったもの
FN(false negative) :	手術終了時にモニタリング波形がアラームレベルよりも低下せず術後新たな神経症状が出現したもの

注：症例レポート波形用紙および術中脳脊髄モニタリングのサンプル  
<https://square.umin.ac.jp/JSCN/specialist/sample.html>

## Patient Information

赤字で示した箇所の明記が必須です。

症例番号	1	性別	女性
検者	XX	年齢	XX 歳
手術日	##年 ##月 ##日	手術部位、手術レベル	胸椎、Th9-11
診断	胸椎黄色靭帯骨化症	術式（手術方法）	椎弓切除
麻酔方法			

※以下の項目は、脊椎脊髄手術で経頭蓋電気刺激—運動誘発電位（Tc-MEP）モニタリング施行例のみ記載してください

Tc-MEP 増幅法 (該当する方法に○)	増幅法なし double train法	multi-train法 tetanus刺激法	TOF値 (モニタリング開始時)	
--------------------------	------------------------	----------------------------	---------------------	--

Comment	<u>記録電位</u> Tc-MEP
	<u>刺激部位（刺激電極設置部位）・刺激強度、刺激間隔、刺激頻度、連発回数</u> Czより前方 2 cm、側方（左右）5cm、刺激強度 150~170mA、 電流値(intensity)だけでなく、刺激強度、刺激間隔、刺激頻度、連発回数、刺激幅(duration)と使用した電極を記載してください。脳外科手術でMEPモニタリング施行例では刺激強度を設定した根拠を記載してください。
	<u>記録電極設置部位（モンタージュ）</u> MEP: 上肢：短拇指外転筋(右) 下肢：前脛骨筋（左右）、母趾外転筋（左右）
	<u>MMT&lt;3の記録筋</u> 特になし
	脊椎脊髄手術でTc-MEPモニタリング施行例では、MEP記録筋でMMT3未満(MMT1かMMT2)の筋を記載してください。（両前脛骨筋、右大腿四頭筋、など）
	<u>所見</u> 除圧中、コントロールMEPやTc-MEPの振幅低下は認めなかった。
	<u>判定</u> （電位低下症例では、低下時にどのようなレスキュー対応をしたか記載してください） True negative症例

次ページにモニタリング波形を貼付してください。

- 被検筋、スケールが記載された記録を提出するか、余白に明記してください。
- 提示する波形はスケールアウトしないよう、また、小さすぎないようにサイズを調整し、個々の波形が判別できるように波形の間隔を調整してください。
- 少なくともベースライン波形、手術終了時の波形、あるいは波形の変化があった波形を提示してください。
- 脊椎脊髄手術でTc-MEPモニタリングを施行した症例では、コントロールMEPも提示してください。

※**ベースライン波形**：侵襲的操作前に手術操作により影響を受ける可能性がある基準となるモニタリング波形。※**コントロールMEP**：Tc-MEPモニタリング中に、対象筋となるベースライン波形に変化があった場合、その変化が有意かどうか判定する際に参考とするモニタリング筋のMEP波形。

指導を受けた認定医のサイン

\*認定医の署名が得られない場合には、術中モニタリング症例の執刀医あるいは担当医の署名を得てください

Patient Information

モニタリング波形 貼付(添付)

脊椎脊髄手術で経頭蓋電気刺激-運動誘発電位 (Tc-MEP) モニタリングを施行した症例では、コントロールMEPも提示してください。

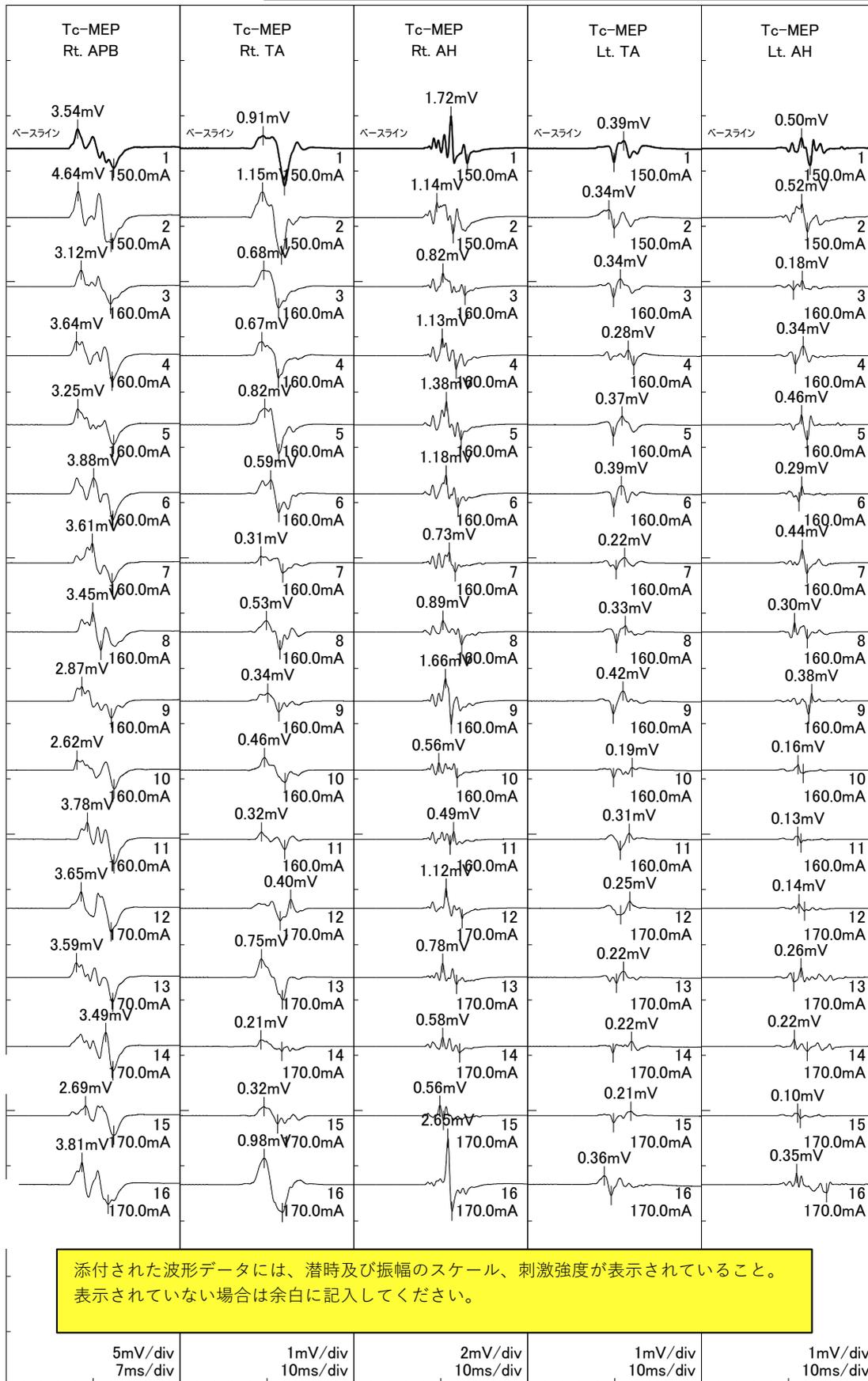
コントロールMEP

ベースライン  
(除圧開始前)

除圧中

除圧終了時

手術終了時



## Patient Information

赤字で示した箇所の明記が必須です。

症例番号	2	性別	女性
検者	XX	年齢	XX 歳
手術日	##年 ##月 ##日	手術部位、手術レベル	頸椎
診断	頸椎症性脊髄症	術式（手術方法）	C3-7椎弓形成術
麻酔方法			

※以下の項目は、脊椎脊髄手術で経頭蓋電気刺激—運動誘発電位（Tc-MEP）モニタリング施行例のみ記載してください

Tc-MEP 増幅法 (該当する方法に○)	増幅法なし double train法	multi-train法 tetanus刺激法	TOF値 (モニタリング開始時)	100%
--------------------------	------------------------	----------------------------	---------------------	------

## Comment

記録電位

Tc-MEP

刺激部位（刺激電極設置部位）・刺激強度、刺激間隔、刺激頻度、連発回数  
コークスクリュー型電極をCzより前方2cm、側方（左右）5cmに設置  
刺激幅0.5ms、刺激強度200mA、

電流値(intensity)だけでなく、刺激強度、刺激間隔、刺激頻度、連発回数、刺激幅(duration)と使用した電極を記載してください。脳外科手術でMEPモニタリング施行例では刺激強度を設定した根拠を記載してください。

記録電極設置部位（モニタージュ）

MEP: 上肢：両側僧帽筋（コントロール筋）三角筋、短母指外転筋  
下肢：両側母趾外転筋

MMT<3の記録筋 特になし

脊椎脊髄手術でTc-MEPモニタリング施行例では、MEP記録筋でMMT3未満(MMT1かMMT2)の筋を記載してください。（両前脛骨筋、右大腿四頭筋、など）

所見

右AHの振幅が一時的に増大したが全筋でベースラインに比べTc-MEPの振幅低下は認めなかった。

判定（電位低下症例では、低下時にどのようなレスキュー対応をしたか記載してください）

True negative症例

次ページにモニタリング波形を貼付してください。

- 被検筋、スケールが記載された記録を提出するか、余白に明記してください。
- 提示する波形はスケールアウトしないよう、また、小さすぎないようにサイズを調整し、個々の波形が判別できるように波形の間隔を調整してください。
- 少なくともベースライン波形、手術終了時の波形、あるいは波形の変化があった波形を提示してください。
- 脊椎脊髄手術でTc-MEPモニタリングを施行した症例では、コントロールMEPも提示してください。

※ベースライン波形：侵襲的操作前に手術操作により影響を受ける可能性がある基準となるモニタリング波形。※コントロールMEP：Tc-MEPモニタリング中に、対象筋となるベースライン波形に変化があった場合、その変化が有意かどうか判定する際に参考とするモニタリング筋のMEP波形。

指導を受けた認定医のサイン

\* 認定医の署名が得られない場合には、術中モニタリング症例の執刀医あるいは担当医の署名を得てください

医師用

施設名：〇〇病院

# 術中モニタリング検査報告書

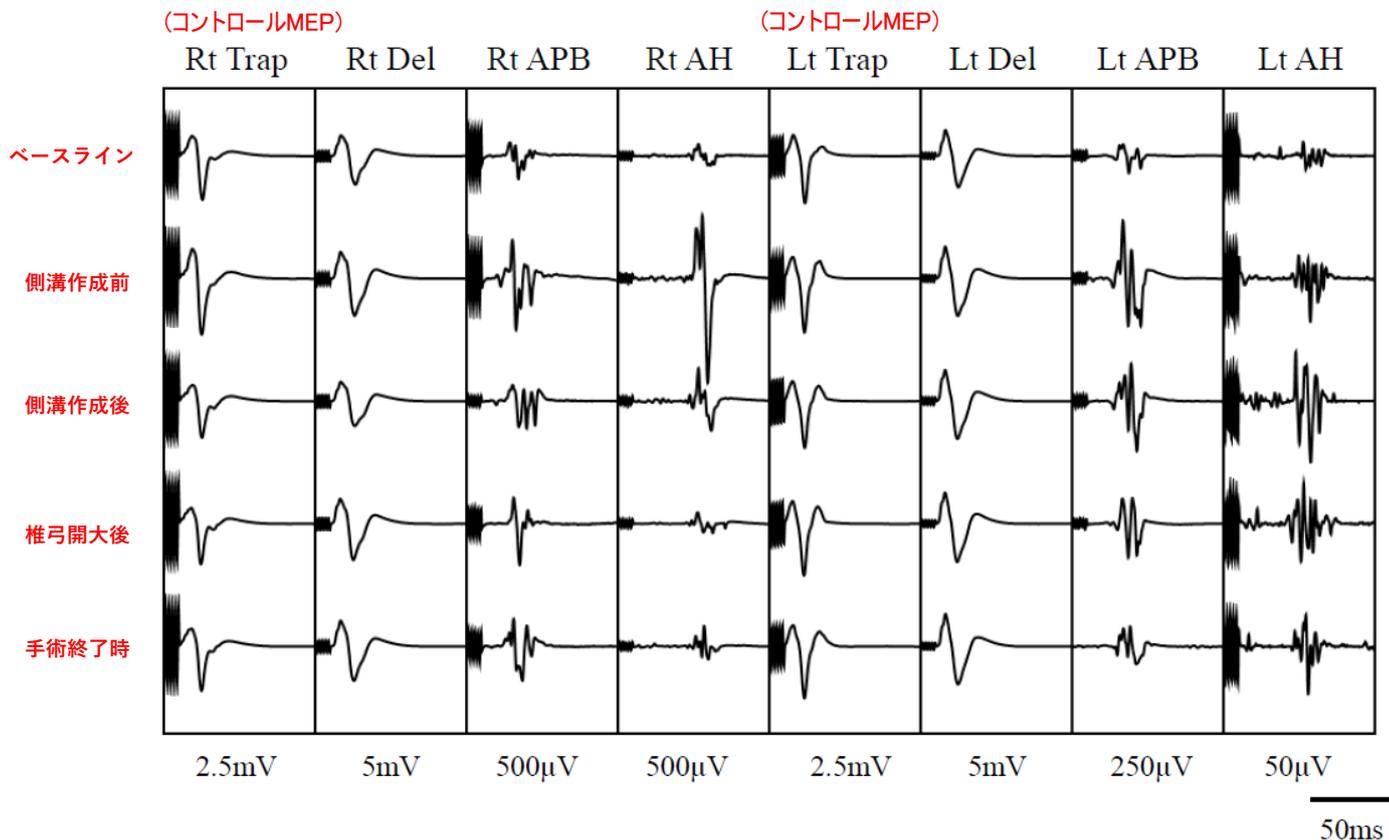
見本  
MEP2

Patient Information

モニタリング波形 貼付(添付)

脊椎脊髄手術で経頭蓋電気刺激—運動誘発電位 (Tc-MEP) モニタリングを施行した症例では、コントロールMEPも提示してください。

Tc-MEP (刺激強度200mA)



添付された波形データには、潜時及び振幅のスケール、刺激強度が表示されていること。表示されていない場合は余白に記入してください。